

# 緑のふれあい交流創生ゾーン1 健康増進広場（案）

～元気で長生き、健康づくりのできる広場～

## 概要

- 緑のふれあい交流創生ゾーン1の東側約1.2haにおいて、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の協力・監修を受けながら、循環器病予防を中心とする健康づくりに資する多種多様な健康遊具を設置する等、市民自ら予防医療を実践できる我が国トップレベルの「健康増進広場」を整備する。
- また、みどりの広場や1号街区公園等とともに、みどり豊かな歩行者空間を整備し、緑の遊歩道と結節させることにより、回遊性を確保した上で、季節を感じながらウォーキングを楽しむことができる空間を形成する。

<参考>

緑を中心とした市民交流空間を目指す緑のふれあい交流創生ゾーン1は、面積が約2haあり、1号緑地と1号街区公園と一体となった総面積約2.5haの緑に包まれた空間とする。全体としては、細長い地形を活かすため緑による緩やかなエリア分けを行い、エリアごとに多目的な利用のできる空間とする。



ウォーキングコースの例

## 健康増進広場の特徴

### ① 予防医療を実践できる広場

健康づくりのきっかけづくりから、ストレッチ、有酸素運動、筋力トレーニング等、健康づくりの目的に応じた多種多様な健康遊具を設置し、国立循環器病研究センター及び市立吹田市民病院の医学的知見を活かした活用方法を教示する等、市民自らが手軽に予防医療を実践できる環境を整備する。

### ② 個人・グループでの健康づくり

健康づくりを個人で楽しむだけでなく、グループで健康づくりに取り組めるような施設整備を行い、コミュニティの形成にも役立つ。

### ③ 運動イベントなどの開催

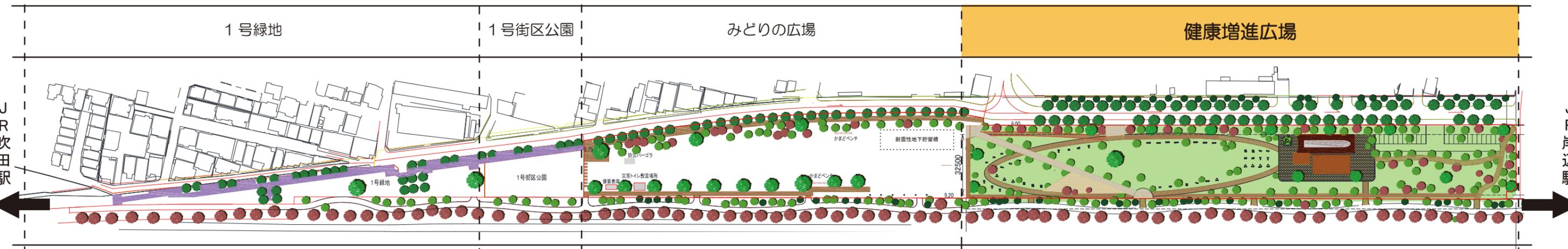
広場の特性を活かし、吹田市（行政）による運動イベント等の実施を検討するとともに、民間主導のイベントも多数行われるよう誘導する。

### ④ ウォーキングコースの複数整備

ウォーキングコースは、個人のペースや気分に合わせてコース選びができるよう複数設定し、四季折々の木々を楽しみながらウォーキングできるよう整備する。



運動イベントの例  
(東京都足立区 HP より)



平成26年度に整備する1号緑地(2300㎡)には、イロハモミジ、ハナミズキ、ツツジなどを植栽し、みどり豊かな空間をつくとともに、複合遊具や幼児が遊べる遊具を配置した広場とする。



複合遊具の例

平成26年度に整備する1号街区公園(1500㎡)には、多目的に利用できる土のグラウンドとする。



グラウンドの例

平成27年度に整備予定のみどりの広場には、日常は、人々の憩いの場を提供するみどりにつまれた広場空間とし、災害時には一時避難場所として活用できる広場とする。



かまどベンチの例

平成28年度に整備予定の健康増進広場には、多種多様な健康遊具を設置する等、予防医療を市民が実践できる広場とする。



健康遊具の例